

人・往来



池田 淳一 さん

(日警保安)
(専務取締役)

警備業ヒューマン・インタビュアー

経営の取り組み

「健康経営」は、社員の健康を重要な経営資源と捉えて、体調管理や健康づくりを推進し、生産性や企業価値の向上を図る取り組みです。

社員が能力を最大限に発揮するために健康経営は必須です。警備業は夜勤があり、高齢者も多いことから、生活習慣病の予防や疾病の早期発見、メンタルヘルス対策などが欠かせません。健康は適正な業務を遂行するため、何より本人と家族のために維持すべきものです。

勤務時間や残業時間などをもちに労災に当たるとの判定を受けました。当社社員の死亡は労災ではありませんでしたが、悲劇を繰り返さないために幹部社員による「健康管理対策委員会」を立ち上げ、取り組みを始めたのです。

定期的健康診断の100%実施はもとより、重要なのは「要再検査」の判定が出た社員に必ず受診して

健康づくりの輪を広げる

健康経営に取り組むきっかけは、社員の突然死でした。昨年4月、施設で勤務していた男性警備員が夜勤中に倒れて亡くなったのです。まだ62歳で、心不全でした。

社員が勤務中に亡くなると、労働安全衛生法に基づいて労働基準監督署に報告を行い、数か月間の

「面倒だから」と受けようとしていない人に対しては、担当者が警備現場に向いて面談し、再検査を受けないことのリスクを説明すると、全員ではありませんが受診してくれました。自分の健康のことで会社が親身になってくれるのは嬉しい」と言う人もいます。

現任教育では、テーマに「健康管理」を取り入れ、私が講義を行いました。心筋梗塞や脳梗塞、くも膜下出血などの前兆と予防法について資料を配布し説明しました。健康情報に対する関心は高いと感じます。

また、「生活習慣チェックシート」を配り、食生活や睡眠時間、運動習慣、休養とストレス、飲酒量、喫煙の本数などを記入してもらい、健康状態を点数制で判定し

ました。グループ会社の社員を含め約800人のデータを対策委員会で集計し、世代ごとの傾向などを分析しています。

「生活習慣チェック」のデータで明らかになったことは、60代の高齢者、特に65歳以上の

人は、食生活や睡眠時間に留意する傾向が見られます。年齢が高いからこそ体調管理を意識しているのです。逆に20代の若い人ほど、十分な睡眠時間を確保し偏らない食事を心掛ける必要があるとわかりました。

社員の喫煙率は約3割です。血管に与える影響などの啓発チラシを給与明細の封筒に同封するなどして禁煙を奨励していきます。マンションの警備では、お客さまの要望で喫煙しない警備員を配置するので、禁煙した人は勤務場所の選択肢が増えます。

今後、定期的に生活習慣チェックを行うことで、一人ひとりの意識を高めて健康づくりの輪を広げたいと思っています。社員が元気に長く働き続けるための取り組みを推進は、自社の特色づくりに結びつきます。

日警保安

- 創業：1986（昭和61）年9月
- 代表取締役：池田隆夫
- 本社：千葉県千葉市花見川区花園1-8-6
- 業務：1号・2号警備業務
- 社員数：822人

「健康経営を進める根底には「働く人を大切にしよう」という社長（父・池田隆夫氏）の創業理念があるのです。今後も取り組みを重ねて、ハードルは高いですが経済産業省と日本健康会議の顕彰制度「健康経営優良法人」の中小規模法人部門で認定を受けることを目標にしています。より多くの若者が警備業に魅力を感じるための方策が求められる中、「社員の健康重視」を打ち出すことは警備業のイメージアップにつながると思います。

若者が集まり、定着する業界へ変わるために不可欠なのは、処遇改善です。残業手当などに頼らずに家族を養っていきける賃金体系の整備が必要で、当社も見直しを進めているところです。

原資となる警備料金の交渉では、見積書の数字について、警備品質の向上や福利厚生、社員の健康増進に必要な経費を反映していると丁寧に説明し、理解をいただいています。健康な社員がいまいると働き、社員満足度、顧客満足度を高めることが重要と考えています。

（聞き手・都築孝史）